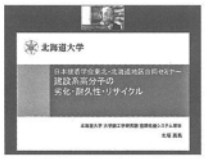
# 東北・北海道合同セミナー
## 多様な研究成果を紹介
### 接着学会東北




日本接着学会東北支部は3月17日、「東北・北海道地区合同セミナー」の交流を深めることを目的として企画された。

今回の講演概要は以下のとおり。

◆「建設系高分子の劣化・耐久性・リサイクル」北垣亮馬（北海道大学）…ウレタン塗膜の寸法変化の検証や、有機無機接着界面の劣化メカニズムの解明、また発泡ウレタンのリサイクルの検討など、建築用途で使用される高分子材料に関する研究成果を紹介した。

◆「次世代ナノドラッグデリバリーを志向した研究の紹介」笠井均（東北大学）…ナノサイズの有機結晶を、サイズを制御して作製する手法について説明するとともに、同手法を用いたナノ薬剤の設計、およびドラッグデリバリーへの応用について解説した。

◆「配列制御ブロックポリマーのワンステップ精密合成法」佐藤敏文（北海道大学）…アルカリ金属カルボン酸塩を触媒として、モノマーと開始剤を混ぜるだけでブロック共重合体を合成できる手法を開発。接着材料への応用を含めて、多様なポリマーの合成事例を紹介した。

成果を紹介するとともに、同地区での会員同士

## 複合材料会議を開催
### 接着関連も発表多数
### 材料学会／複合材料学会

日本材料学会と日本複合材料学会は3月7～9日、「第13回日本複合材料会議」をオンラインで開催した。

同会議は、複合化や構造、機能など、材料に関する幅広いテーマについて、研究者間の情報交換の機会を提供することを目的として開催されている。今回は、194件の講演が実施され、412人が参加した。

接着技術関連のおもな発表は以下のとおり。

【特別講演】

◆「Adhesive Bonding of CFRP」Erik Moß（フラウンホーファーIFAM）

【一般講演】

◆「ゴム変性エポキシ接着剤のモードⅠおよびモードⅡ荷重下の破壊じん性値に及ぼすゴム変性の影響」原圭介（和歌山工業高等専門学校）

◆「エポキシ接着剤によって接着接合されたCFRP／アルミニウムDCB試験片の疲労き裂進展特性」仙頭健太（大阪市立大学）

◆「エポキシ接着剤における真空帯凍乾燥処理によるCFRP接着接合体の破壊靱性値向上」山内開人（東京理科大学）

◆「第二世代アクリル接着剤（SGA）のスカーフジョイントにおける温度依存性」上山幸嗣（三菱電機）

◆「イトロ処理を適用した接着界面強度評価」石川卯一朗（明治大学）

◆「CFRP用エポキシ系接着剤における硬化度その場測定法」森本哲也（宇宙航空研究開発機構）

◆「CFRPとアルミニウム合金の接着接合材の衝撃引張り特性におよぼす接着条件の影響」清水海翔（岡山理科大学）

◆「凍結融解がCFRP接着継手のモードⅠ破壊じん性に及ぼす影響」北川恵介（東京都工大学）

◆「シランカップリング単分子と金属の第一原理接着強度評価」福井直樹（大阪工業大学）

## 新社長に松原氏
### 専務から昇格
### 田島ルーフィング

田島ルーフィングは、3月17日付で松原幸雄専務取締役（写真）が社長に就任したと発表した。田島国雄前社長は取締役として留任するとともに、持株会社である田島ホールディングスの社長を継続する。

松原 幸雄氏（まつばら・ゆきお）＝1983年田島ルーフィング入社、2015年取締役、18年常務取締役、19年専務取締役。栃木県出身、61歳。

## VOC低減剤を開発
### 建材・内装材向けに提案
### 古河産業など3社

古河電気工業グループの古河産業は、日本抗菌総合研究所、アルバファインテックと共同で、揮発性有機化合物（VOC）と揮発性硫黄化合物（VSC）を同時に低減するマスターバッチを開発した。

日本抗菌総合研究所がいい抗菌効果も有する。銅や鉄、銀などの金属イオンを含ます、食品添加物といった樹脂製品への適用を想定しているほか、室内で使用される接着剤などから放散されるVOCの低減に、同技術を活用する用途も検討する。

同技術では、シックハウス症候群や化学物質過敏症などの健康被害や、悪臭の原因となるVOC・VSCを、化学反応により分解・除去する。ホルムアルデヒドのほか、硫化水素やメチルメルカプタン、酢酸、アンモニア、トリメチルアミン、ピリジンなどを低減でき、高性能に合わせたカスタマイズも行っており、特定の物質の除去に特化させることも可能。VOC低減への要求が高まっている、建材や自動車内装などのメーカーと共同で、すでに製品への適用の検討を開始しているという。

古河産業・合成樹脂事業部の勝田孝行氏は「ニーズに合わせてカスタマイズできることが、この技術の強みだ。接着剤分野での応用も検討しており、業界の課題を吸い上げて、解決の提案を進めたい」と話した。

## 1月エマルジョン出荷
### 3ヵ月ぶりの前年比減
### 日接工調べ

日本接着剤工業会は、2022年1月のエマルジョン出荷量（表）を発表した。

出荷量全体では、前年同月比0・2%減の3万2977㌧。接着や塗料、製紙向けの出荷が低調に推移し、3ヵ月ぶりの減少となった。季節調整済の暦年換算値は43万9296㌧。

用途別に見ると、接着剤用が同3・0%減の9367㌧、粘着剤用が同0・9%増の4732㌧、塗料用が同1・6%減の1万1575㌧、製紙用が同8・5%減の739㌧、繊維用が同1・8%減の1529㌧、土木用が同8・9%増の1916㌧。接着は2ヵ月連続のマイナス。同月としては、2年連続で1万㌧を割る推移となった。

粘着は2ヵ月ぶりの減比増。微増ながら、前年の落込みから回復した。塗料は3ヵ月ぶりの減少となったものの、平年並みの水準は維持している。土木は2ヵ月ぶりの増加。同月の出荷量が100・04%増の1万1340㌧、アクリル・スチレン共重合樹脂が同3・2%増の8583㌧、その他の樹脂が同7・7%減の2335㌧。

2022年1月 エマルジョン出荷量

| | | 出荷量(t) | 前月比(%) | 前年比(%) | 構成比(%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 用途別 | 接 着 | 9,367 | 91.6 | 97.0 | 28.4 |
| | 粘 着 | 4,732 | 89.7 | 100.9 | 14.3 |
| | 塗 料 | 11,575 | 90.0 | 98.4 | 35.1 |
| | 製 紙 | 739 | 79.0 | 91.5 | 2.2 |
| | 繊 維 | 1,529 | 88.4 | 98.2 | 4.6 |
| | 土 木 | 1,916 | 98.2 | 108.9 | 5.8 |
| | そ の 他 | 2,066 | 124.6 | 127.5 | 6.3 |
| | 輸 出 | 1,053 | 92.0 | 87.8 | 3.2 |
| | 合 計 | 32,977 | 92.2 | 99.8 | 100.0 |
| 樹脂別 | 酢ビ・ホモ | 6,460 | 93.9 | 103.4 | 19.6 |
| | 酢ビ・コポリ | 923 | 93.5 | 92.5 | 2.8 |
| | EVA | 3,336 | 89.5 | 92.1 | 10.1 |
| | アクリル | 11,340 | 90.0 | 100.0 | 34.4 |
| | アクリル・スチレン | 8,583 | 98.8 | 103.2 | 26.0 |
| | その他 | 2,335 | 80.2 | 92.3 | 7.1 |
| | 合 計 | 32,977 | 92.2 | 99.8 | 100.0 |

## 接着・粘着技術展
### 出展企業を募集
### 大阪産創館

大阪産業創造館は、6月17日に大阪市中央区の同機関で開催する「接着・粘着技術展2022」の出展企業を募集している。

同展では、近年注目が集まる異種材接合技術や高機能接着剤をテーマとして、強靱性、導電性、耐熱性などの機能付与をはじめ、精密接着、低温接着といった多様な関連技術を募集。産業界における高機能化や小型化、低コスト化のニーズとのマッチングを図る。

対象となる技術は、一例として▽瞬間接着剤▽異種材の接着技術▽再剥離が可能な粘着剤▽接着面を任意の形状に加工できる技術▽特殊な素材に施工できる粘着剤――など。申込み締切りは4月15日。詳細・申込みは同機関Webサイト（www.sansokan.jp）から。

## 風信

◆アイカエ業人事（4月1日、C＝カンパニー、G＝グループ）▽品質管理部（第一G長（品質管理G長）杉浦俊之▽R&Dセンター次長兼品質管理部第二G長（菅田寺第一R&D統括部伊勢崎R&Dセンター次長兼品質管理部第三G長（菅田寺第一R&Dセンター第二G長）原田充祥▽品質管理部第三G長（機能材料C品質管理G長）山田賢介▽生産統括部伊勢崎工場生産課長（フェノール樹脂事業部伊勢崎工場生産課長）品田弘▽同統括部樹脂開発G長（同C同センター水性樹脂開発G長）辻丹波▽工場生産企画課長（機能材料C生産統括部同課長）池田和久▽同統括部同工場生産課長（同C同統括部同工場生産課長）上田和樹▽R&D統括部智田R&Dセンター次長（首都圏試作推進部次長）同統括部同センター建設樹脂開発G長（福島R&Dセンター1G長）杉山真貴▽同統括部同センターショリバット開発G長（同センター第二G長）齋藤祐司▽同統括部伊勢崎R&Dセンター上席主任研究員（フェノール樹脂事業部伊勢崎R&Dセンター1G長）小野能理善▽同統括部甚目寺R&Dセンター管理部長（イノベーション推進部長）▽同統括部長）西入啓之▽同部門副部長兼同センター接着剤開発G長兼先端技術研究チームリーダー（甚目寺第一R&Dセンター次長兼同センター1G長）磯部覚▽同統括部同センター化学品開発G長（機能材料C甚目寺第二R&Dセンター化学品開発G長）佐藤智彦▽同統括部同センター電子材料開発G長兼先端材料研究チームリーダー（同C同センター電子材料開発G長）熊谷正章▽同統括部丹波R&Dセンター新規材料開発G長兼先端材料研究チームリーダー（同C丹波R&Dセンター新規材料開発G長）杉龍司▽同統括部同センター水性樹脂開発G長（同C同センター水性樹脂開発G長）辻巻順治

◆デンカ組織改定（4月1日）①インドバンステープ部を高機能粘接着材料部に改称するとともに、同部に高機能フィルム・接着剤部を高機能フィルム部に改称する②高機能フィルム・接着剤部を高機能フィルム部に改称▼同人事（4月1日）▽電子・先端プロダクツ部門高機能フィルム部長（電子・先端プロダクツ部門高機能フィルム・接着剤部長）渡辺仁大▽同部門高機能粘接着材料部長（イノベーション推進部長）▽同統括部門長（同センター第二G長）▽同統括部伊勢崎R&Dセンター1G長（同センター第一G長）▽同統括部同センターショリバット開発G